

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800310		
法人名	社会福祉法人 内野会		
事業所名	グループホーム 鴨生の里		
所在地	〒820-0206 福岡県嘉麻市鴨生693番地1	Tel. 0948-42-2790	
自己評価作成日	平成29年11月18日	評価結果確定日	平成29年12月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel. 093-582-0294	
訪問調査日	平成29年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鴨生の里は、ログハウス調で天井を高くつた開放感抜群のウッディな作りになっています。中央に皆様の共有スペースを設け、その周囲を取り囲む様に各個室が有ります。皆様、部屋を開ければ共有スペースが目に入るので自然と中央の共有スペースへ集まり過ごされています。その方が安心するようです。なので、皆と楽しめる物作りや歌、体操、お話し会など、常に時間が有れば皆様に楽しんで頂く為に、色々と考え提供し賑やかに過ごしております。また、料理が上手なスタッフが多くいるので、味付けは勿論の事、盛り付けなどにも工夫を凝らしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

嘉麻市の県道403号線沿いの利便性の良いバス停の真ん前に位置し、1ユニット(定員9名)のグループホーム鴨生の里がある。地域福祉の拠点として、認知症高齢者が住み慣れた地域の中で安心して生活できる場所として、15年前に開設した認知症専門の事業所である。吹き抜けのリビングルームを中心に、家庭的な雰囲気の中で、職員が利用者や家族のような関係を築き、利用者の心を開き元気で自信を取り戻す利用者を見守る家族は、「ここを選んで良かった」とホームと深い信頼関係を築いている。毎週往診体制の提携医療機関の医師と、看護師、介護職員が協力し、利用者の小さな変化も見逃さず早期治療に繋げている。食事は、安全な食材と調味料を使って職員が、交代で作る愛情たっぷりの美味しい料理を利用者が完食し、健康の源になっている。また、職員一人ひとりの介護技術や知識の向上に取り組み、利用者や家族から頼りになる事業所として、高い評価を得ているグループホーム「鴨生の里」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で、理念を共有し、利用者様との寄り添いを大切にしながら、楽しく安心して生活できる環境作りに努めている。	グループホームだからできる介護の在り方を明示した理念を玄関に掲示し、理念の意義や目的を職員一人ひとりが理解できるように工夫し、利用者が、住み慣れた地域の中で、生きがいと安らぎのある生活を送る事が出来るよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度の地域の「いきいきサロン」は、欠かさず参加し、地域の方々との交流の場としている。しかし、その際、地域の方々には様々なお声掛けをするも、なかなか施設の方へ足を向けて頂くのは厳しい。	近隣の公民館で行われるいきいきサロンに、数名の利用者が参加し、地域住民と交流を図っている。利用者や職員は敬老会に参加し、同法人施設の秋祭りに出かけ、地域交流の輪が広がっている。また、中学生の体験学習やボランティア等の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンなどに参加した時に他の出席されている方々やボランティアで施設へ来られる方々などには、良く対応方法など聞かれ、お答えする機会が有る。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議には、ご家族様にも参加頂き、意見交換をして今後のサービス向上に努めている。	会議は、2ヶ月毎に開催し、行政職員、民生委員、同法人他事業所管理者等の参加を得て、ホームの運営や取り組み、課題やヒヤリハットなどを報告し、参加委員から質問や要望、情報等の提供を受けて意見交換を行い、ホームの運営やサービスの向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで、良かったこと悪かったこと問題と思っていることなど、全て積極的に伝え、協力を得ている。	運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの現状や取り組み、課題等を伝え、助言や情報を提供して貰い、協力関係を築いている。また、グループホーム連絡協議会に参加し、困難事例についての話し合いや情報交換を行い、行政と連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	些細な声掛け一つでも、厳しく常に伝えて身体拘束を絶対しないという取り組みが全職員に繁栄できている。	外部の研修会や職員会議の中で、身体拘束について学び、言葉や薬の抑制も含めた拘束が、利用者にも与える影響について職員一人ひとりが理解し、禁止行為の具体的な事例を挙げて話し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は日中は開放し、職員の見守りや付き添いにより、利用者が自由に出入り出来る環境を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングやニュースなど報道で伝えられた時など時間を持ち、話し合い伝える場としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどで、話す機会を持っている。	権利擁護の制度を活用している利用者はいないが、制度について職員はある程度理解が出来ている。外部研修を受講した職員が内容を報告し、職員一人ひとりが制度についての理解を深めている。利用者家族の高齢化等により、今後制度の必要性を感じる事から、資料を用意し契約時に説明を行い、必要になれば制度を活用出来る支援体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	じっくり時間を掛け、納得いく状態で契約し、一つずつ項目ごとに、「ここまでは大丈夫ですか?」と、確認しながら進めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際など、現在の状況などを話し、必ず何か尋ねておきたいことなどは無いかと、投げかけている。	職員は日常生活の中から利用者の思いや意向を聴きとっている。家族の意見や要望は、面会時や電話、メールのやり取りの中で聴き取り、ホーム運営や利用者の介護計画に反映させている。年に1回、クリスマス会を兼ねた家族交流会を開催し、スライドショーで利用者の暮らしを報告し、直接要望を聴く機会を設けている。	家族との交流を年1回開催しているが、今以上に利用者と家族、職員との絆を大切にし、利用者を共に支え合う関係を築いていく事を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に疑問に思ったことは、伝えて頂いているが、月に一度の職員ミーティングで意見などを聞いて話し合っている。	毎月、法人会議の後に職員会議を開催し、ほぼ全員が参加し、勉強会も含め2時間しっかりと話し合いを行っている。毎回数名ずつ利用者のカンファレンスを実施し、担当職員を中心に意見を出し合い、ケアの統一に努めている。外出やレクリエーション、行事についても活発な意見が出され、出された意見を出来るだけ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間が過ぎて居残り仕事をするべくしないよう、早め早めに声掛けしている。また、職員ミーティングなどで、時間外勤務が生じる場合なども、スムーズに申請が出来るように、事前に事務所へ届け出ている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員個々の優れた面を持ち上げ、また、担当などに振り分け、自信へと繋げていけるようにしている。	管理者は、職員の特長や能力を把握し、適材適所の役割分担を整え、職員が生き生きと働きやすい職場を目指している。職員の募集は、年齢や性別の制限はなく、採用後は、外部研修の受講を促し、内部の勉強会をしっかりと行い、介護技術の向上に取り組んでいる。また、資格取得のためのバックアップ体制を整え、職員一人ひとりが意欲的に働ける就労環境である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	常日頃より、申し伝えている。	外部や法人内の人権研修会に参加した職員が、伝達研修を行い、職員全員が利用者の人権を守る介護の在り方について理解が出来ている。職員は、言葉遣いや対応に注意し、利用者が、ホームの中で尊厳のある暮らしが支援出来るように工夫を重ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域の研修やPC上で学べる研修を活かしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに、出向いた際に話す機会を設け様々な取り組みに向けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どうしても不安が生じるので、ご家族様にも度々、足を向けて頂き職員も寄り添い不安を解消できるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画を立てる段階でご家族様の意見や要望をしっかりと聞き、じっくりと話している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な提案をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩ですし、様々な事を知ってらっしゃるので、教えて頂くという形で、傾聴したり、手伝いをして頂いたりしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された折には、最近のご様子やご家族様に伝えておきたい良い変化などや微笑ましいエピソードなどを伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	このグループホームがご自宅と思って頂くように、常にお話しをして、お友達などにも気軽に来ていただくようにしている。	昔からの親友が訪ねて来る利用者がいて、楽しいひと時を過ごし、昔を思い出している。また、家族の協力で、馴染みの美容室に継続して通っている利用者等、入居時に利用者の人間関係や地域との関わりを聴き取り、アセスメントに記録し、職員全員で共有しながら、利用者の馴染みの関係が、ホーム入居で途切れないような支援に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても、性格上合う合わないなどが生じるので、状況を見て、席替えなどをして関係性が悪化しないように未然に対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも、気軽に立ち寄って頂けるような声掛けを行い、実際に通りがかりに寄って頂けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別のお話しを聞く機会を、常に作り利用者様からも「ちょっと良いですか?」などと、意見や希望を伝えられ易いようにしている。	ホームでの暮らしの中で、職員は利用者の思いや意向を聴き取り、「うどんが食べたい」「家に帰りたい」等の希望には、寄り添いながら出来るだけ応えられるよう取り組んでいる。意思の表出が困難な方には、家族に相談したり、利用者の表情や仕草から思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際などに、時間を掛け職員に伝え、途中で判った事に関しても、申し伝えるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りで職員へ申し伝えている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意向を聞き、ケアミーティングで十分、話し合いを重ね意見を取り入れ計画担当者が作成している。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングの中で、職員の気づきや提案を採用入れ、現状に即した利用者本位の介護計画を短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に変化など有ったりした時は、伝達ノートを利用して職員間で情報を共有できている。また、ケアミーティングなどで、内容を話し見直しなどに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にご家族様へお話しを伺い、当施設で差し上げられる事で有れば・・・と言う思いの中で取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の嗜好・楽しみ方は様々ですが、個々が楽しみを見つけ心豊かな生活が送れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	些細な変化なども細かく申し伝え、それに対して柔軟に対応してくださっている。	入居時に利用者や家族の希望を聴いて、主治医を決めている。現在は、3分の1の利用者が、入居前からのかかりつけ医で、家族対応で受診している。また、協力医療機関の医師による往診や訪問歯科を週1回利用し、適切な医療を受けられるよう、きめ細やかに支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の細かな変化や気づき情報などは、申し伝え、支持を受け対応に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来る限り、病院へ出向き現在の状況などの把握に努め、早期の退院と体調の改善に向けられるよう、病院関係者様と連絡を取り合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めの段階より、ご家族様にお話しをして、不安の無いように対応している。	「重度化した場合の対応に係る指針」を基に、契約時にホームで出来得る支援と、医療機関でしか出来ない支援について利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の状態変化や重度化に合わせて、家族や主治医と話し合い、利用者が一日でも長くホームで暮らせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員ミーティングなどで、訓練を行い、即座に対応できるように申し伝えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などを通して災害時の対応を全職員が身につけている。	自主防災組織による避難訓練を、消防設備点検時に合わせ、夜間想定を含め年2回実施している。通報装置や消火器の使い方を確認し、避難経路、非常口、避難場所を確保して、利用者が安全に避難出来る体制を整え、近所にある同法人施設との協力体制も整っている。また、事務所に非常持ち出し袋を用意し、飲料水、米、缶詰等の非常食の準備も整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉かけを常日頃より、徹底している。	利用者のプライバシーを尊重する介護の在り方を、職員間で日常的に話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した排泄や入浴の支援に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「今、何か心配に思っている事など無いですか？」と、聞く時間を作り、傾聴するようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで、その日を過ごして頂けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着て来られている服が素敵な時など、皆に素敵ですよ等と、見て頂きもっとおしゃれをしたくなるように向けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みなどを把握した上で、時に利用者様から作り方を聞いたりして、美味しいと言って頂けることを励みに作り、下膳や洗い物に一部の方が手伝ってくださる。	食事は利用者の楽しみな時間であり、旬の食材(隣の畑の大根等)を使った、職員手作りによる家庭的で美味しい食事が準備され、手作りの柚子みそやデザートが添えられ、季節感を味わいながら食べる料理は、利用者の食欲増進に繋げている。また、月1回パン屋さんが来訪し、パンを買ったり、外食に出かける等、利用者が食べたいものを食べられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量の記録や、日々の状態の変化の把握に努め、職員全員に通達して栄養・水分摂取が促せるように努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立で出来る方には、お声掛けを行い、介助を要する方々は、洗面所へ誘導し、口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗で自尊心を傷つけないよう、何気ない声掛けでトイレへ促したりして、自立に向けるようにしている。	利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、各居室のトイレで排泄を支援している。職員は利用者の排泄パターンを把握し、利用者の表情や仕草を察知して、声掛けや誘導を行い、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間、利用者の希望を聴きながら、出来るだけトイレ誘導を行い、オムツやリハビリパンツの使用軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操の際、便秘にも効果が有るといふ体操も取り入れたたり、牛乳やヨーグルトを飲んで頂いたり、個々に応じた対応をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は一応決まっているが、入る入らないの意思決定は本人様へ伺う。また、前回の入浴日に入れなかった方などには、入浴日でなくても「ちょっと入りたい」などの声に対応可能な時は対応できている。	入浴は週3回(火、木、土)を基本としている。柚子湯やしょうぶ湯等、楽しい入浴になるよう支援している。開設15年目であるが、浴室、浴槽の清掃も行き届き、利用者が気持ち良く入浴が出来る環境を整えている。現在は、入浴を拒否する利用者はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の対応ができています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬状況の把握などは、表にして理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事やお話しを通じ、個々がリラックスできる状況を設けている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩などは、その日その日で対応可能だが、「寿司を食べたいうどんを食べたい」などの意見は、計画を立て、なるべく早々に行けるように対応している。	気候の良い時期は散歩を兼ねて近所のお店へ買い物に出かけたり、隣の畑を覗いたり、なるべく外に出掛けるように心がけている。いきいきサロンや法人行事に利用者と職員が参加したり、外出レクレーションを企画して、コスモス、彼岸花、紅葉等、季節の花見に出かけ、外食して帰ってくる等、利用者の気分転換を兼ねた外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設の方々は、自分で持ちたいと言うより、預けている事の方が安心とされている方が多い。いつでも使えるお金が有るという事を知ってらっしゃるので、買い物に行きたいなど言ってこられる。その都度、対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたので出してきて欲しいや、電話してなどには常に対応できている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるような飾りを掲示して、清潔な場所で生活できるように配慮している。	季節毎に利用者と職員が共同で制作した作品や、毎月取り組んでいる習字の作品、利用者の笑顔の写真を掲示し、アットホームな空間作りに取り組んでいる。吹き抜けで開放感のある共用空間は広く、大きな窓から日が差し込むと、職員が、「日向ぼっこしましょう」と利用者に声をかけて、窓際のソファーに移動し穏やかに過ごす利用者の姿が見られる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースの他、陽だまりの方にもソファーとテレビを設置して過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居時にご家族様と話し、馴染みの物や趣味の物を置くなどして、落ち着く空間を設けている。	利用者が長年使い慣れた家具やテレビ、家族の写真、生活必需品等を、家族の協力で持ち込んで貰い、利用者が穏やかな気持ちで暮らせるように配慮している。障子の付いた窓の外に向かって椅子が置かれ、寛げる雰囲気のある居室である。また、掃除が行き届き、居室にはそれぞれトイレが設置され、利用者のプライバシーが確保され、安心して過ごせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	周辺に各自の個室が有り、真ん中に食事スペースと、言う解り易い環境である。		